

研究課題（テーマ）		ため池改修事業と生物多様性保全の両立を図るための実践的手法の開発	
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	教養教育センター	准教授	鈴木 浩司
研究結果の概要			
氷見市にある大浦大池（周囲約 800m）は江戸時代に作られた農業用ため池で、周囲は里山の雑木林に囲まれた自然豊かな場所である。古くからこの池には水生植物アサザ（写真左）・ガガブタ（写真右）（両種とも環境省 RL では準絶滅危惧、富山県 RDB では絶滅危惧 I 類）が生育していることが知られ、県内ではおそらく最も大規模な生育地である。この大浦大池において令和 4 年からため池整備事業が始まり、堤体部分の取替えを行うことになった。工事期間中（～R7 予定）は水が抜かれるため、アサザ・ガガブタの消滅が危惧された。そこで、昨年度から両種の現地保全（生息域内保全）を行うために、ため池内の工事区域外 4 ヶ所に止水板を設置することで水たまりを作り、両種が生育できる環境を整備した。しかし、豪雨による急な増水、積雪の影響で止水板の破損や流れてきた土砂の堆積により水たまりの損壊が予想される。そこで、定期的に見回りをし水たまり（止水板）の維持管理を行った。止水板を設置した 4 ヶ所の水たまりのうち、2 ヶ所については周囲からの水の流れがほとんどなく、雑草の侵入により乾燥化が進んでしまっている。残りの 2 ヶ所については、上流からの水の流れがあり、一定程度の水たまりを形成している。しかし、土砂の堆積や止水板の欠損が見られ、それらについてはその都度修復した。ため池の水が除かれて最初の夏を過ぎた時点で、水がなくなったところには多くの雑草が入り込み、急速に陸地化が進むことが実感として知ることができ、環境の変化とそれによる生物多様性の変化の速さを垣間見ることができた。また、温室で移植株を栽培するのは比較的容易だが、現地で自生個体を保護・保全するのは様々な要因を考慮しなければならないことを学んだ。			
			
今後の展開			
本研究活動により、堤体工事という大規模な工事にも関わらず、現地において希少な水生植物であるアサザ・ガガブタを存続させることができている。しかし、豪雨等により大量の水が流れ込むと、一部の止水板が決壊してしまう。今後も継続的なモニタリングと修繕を行っていく。水たまりはアサザ・ガガブタだけでなく、他の様々な生き物の生育の場としても重要で、ため池全体の生物多様性を保全することを目標としていきたい。			